

命を守るのか、その後の生活を守るのか…

防災科研「成果発表会」で議論

ベルマーク財団と「防災科学教室」を共催している茨城県つくば市の国立研究開発法人・防災科学技術研究所(以下、防災科研)が2月13日、東京・丸の内での東京国際フォーラムで「令和元年度成果発表会」を開き、1000人を超す研究者や自治体関係者らが集まりました。

第1部は、昨年多発した広域・大規模な風水害に関連する最先端の研究発表。防災科学教室やへき地校向けの理科実験でお馴染みのDr.ナダレンジャーも登場しての楽しい実験を披露、会場を沸かせました。

休憩時間を利用した第2部は、個々の研究をまとめたポスター146枚が会場後方にズラリと展示されました。参加者たちは気になった研究の前で足を止めてじっくり熟読していました。

第3部は防災科研の林春男理事長とジャーナリスト・池上彰さんが災害時の「避難」をめぐる対談。林理事長は「日本では命を守るための避難(evacuation)と、生き残った後に生活を保つための避難(sheltering)が混同されている」と指摘。上の階に逃げれば浸水から助かったのに、避難所に行かなければと思ひ込み車で向かい流された例などを挙げ、いざという時の行動の指針をしっかりと示すことが必要と訴えました。

池上さんは「研究の成果を社会に橋渡しするための仕組みづくりを考えてほしい。今日の発表でも、難しい言葉ばかりで門外漢には何のことか分からない。せつかくの成果をきちんと伝える、努力がまだ足りない」と注文を付けていました。



① Dr.ナダレンジャーによるデモンストラーション
② 林理事長と池上さんによる対談
③ スラリ並んだ研究ポスター

高校生にもクリエイティブ賞

チャリティー年賀状全国学生デザインコンテスト2020表彰式

インターネットで購入すると支援金がウェブベルマーク協会を通じてベルマーク参加校に届けられる「チャリティー年賀状」。そのデザインを公募した「全国学生デザインコンテスト2020」の表彰式が2月26日、主催する博報堂アイ・スタジオの会議室でありました。

今年度新設された中高生対象のクリエイティブ賞に選ばれたのは、香川県立坂出商業高校情報技術科3年の島田美琴さんによる「梅を見上げるネズミの年賀状」。授業の課題として応募したそうで、島田さんは「受賞は驚きました。めちゃくちゃ嬉しいし、光栄。自分の中にあるものを整理する上でいい経験になりました」。同席した父の久照さんは、一緒に旅ができるのは「最初で最後」と、香川から付き添ってきました。今年は娘の作品を70枚ほど買ったそうです。

大賞は、昨年11月20日から今年1月15日までのチャリティー年賀状販売期間中、利用数が5567枚と最も多かった星野紗弥香さんの「幸せのつめあわせ」に贈られました。準大賞は廣野綾花さんの「きもちつたえチュウ♡」で同4740枚でした。2人ともデザインなどを学ぶ専門

学校生です。

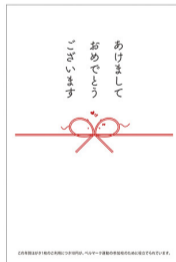
「チャリティー年賀状」は、公募したデザインの年賀状を購入すると1枚につき10円がウェブベルマーク協会に寄付されます。東日本大震災の被災校を支援するため始まり、昨年度からは支援先が全国のベルマーク参加校に広がりました。

今年度は「わたしから、あなたへ。」がテーマ。過去最多の932点の応募がありました。計130点がネット上で販売され、107万6190円がウェブベルマーク協会に寄付されました。

チャリティー年賀状 全国学生デザインコンテスト受賞者表彰式



大賞



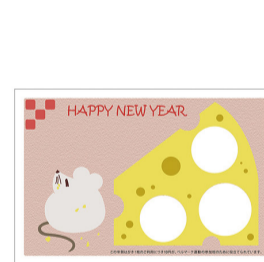
準大賞



CG-ARTS賞



クリエイティブ賞
通常年賀状



クリエイティブ賞
フォトフレーム年賀状



クリエイティブ賞
中高生対象

「環境出前授業」を募集中

キャノンマーケティングジャパン

協賛会社のキャノンマーケティングジャパン(ベルマーク番号19)は、小学4年生を主な対象とした「キャノン環境出前授業」の希望校を募集しています。プリンターの消耗品であるトナーカートリッジを題材に、リサイクルの重要性などを学習するプログラムです。授業は講師が学校に伺う出前形式で実施します。

授業では、キャノンのリサイクル拠点「キャノンエコテクノパーク」(茨城県坂東市)でも実際に使われている資源の分別方法を、科学の実験を通して子どもたちに体験してもらいます。所要時間は約90分。終わった後は「キャノンエコマスター認定証」が子どもたちに渡されます。

キャノンのホームページにある「申し込みフォーム」に必要事項を記入して申し込みます。対象は4年生を想定していますが、5、6年生でも実施可能です。一回の授業は最大60人程度です。URLは以下。

<https://cweb.canon.jp/ecology/delivery-class/index.html>



キャノンエコアンバサダー
椎野 エみる

キャノンエコアンバサダー
土男

財団理事会、 2020年度予算など承認

ベルマーク財団の理事会が2月27日、東京・築地の財団事務所で開かれ、2020年度の事業計画と予算案を原案通り承認しました。

へき地学校、特別支援学校、東日本大震災被災校などへの支援を継続するほか、近年は突発的な災害が多発していることも考慮し、そうした事態に備えた予算を増額しました。へき地校への出前教室や、本の作者が学校を訪問するオーサービジットなどのソフト事業も例年通り続けます。ベルマーク預金からの寄付を呼びかける友愛援助は、アジア・アフリカでの子どもたちの学習・健康のための活動をしているNGOの事業に東日本大震災援助を加え、あわせて9事業を対象に呼びかけます。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月5日に予定されていたベルマーク協賛・協力会社懇談会は延期しました。財団創立60周年にあたる10月前後にあらためて開催する予定です。また同様に、財団では職員の感染対策として、職員が朝の通勤時間をずらして出社する「時差出勤」措置をとりました。